

# とこは未来教育推進助成事業（令和6年度採択事業）

## 事業成果報告会

### 実施報告書

1. 開催日時： 令和7年8月6日（水） 15時00分～16時30分

2. 会 場 ： 常葉大学静岡草薙キャンパス

※Zoom同時配信

※一部、動画による報告あり

3. 参加者 ： 67名

4. 事業趣旨：

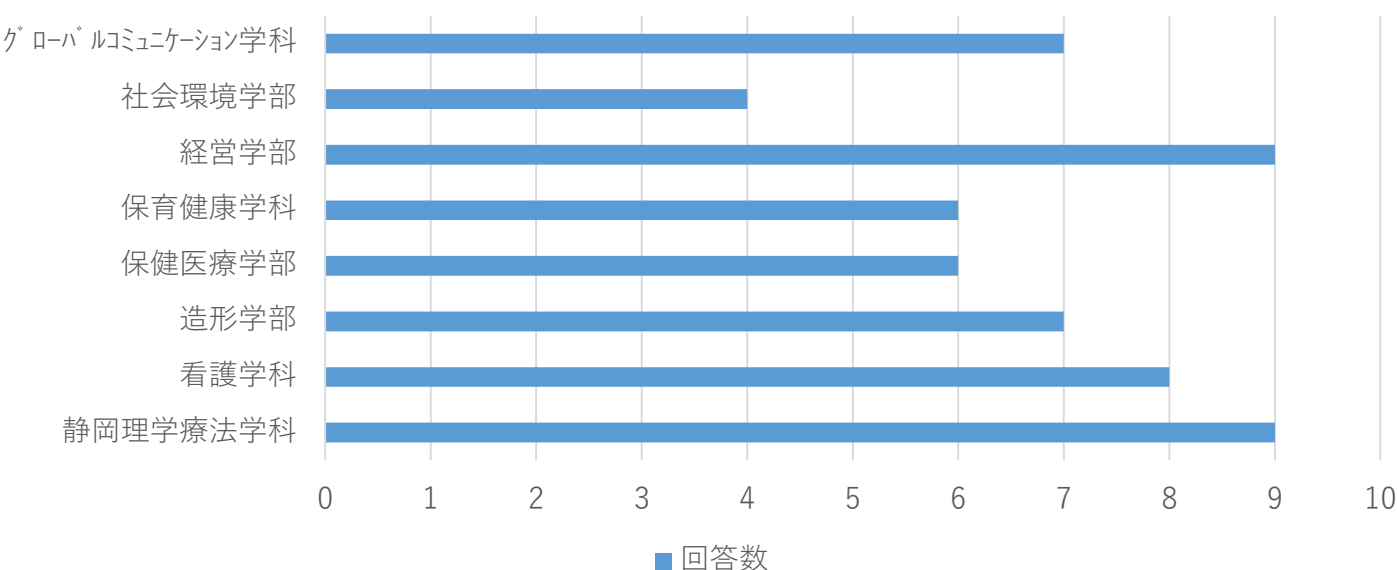
「とこは未来教育推進助成事業」とは、更なる基盤の構築を目指し、学部や学科の特色ある教育の強化や個別最適化に適した学びを推進するための経費支援制度である。本事業を通じて、学生の満足度を高める魅力的な大学づくりを推進する。

5. 事業報告

形式	事業名	事業代表者（発表者）
会場	国際派社会人育成プログラム:beyond the boundaries	グローバルコミュニケーション学科 学科長：崔慶原 教授
	1・2年生を主な対象にした＜First Step＞と2・3年生を主な対象にした＜Second Step>からなる2段階の国際派社会人育成プログラムである。 ＜First Step＞：学内での学修内容を「臨地実習C（海外）」を通して深化させる。 ＜Second Step＞：＜First Step＞からの継続的な効果を得るように、語学研修の参加支援、語学検定試験合格者への受験料補助（上級級合格者に対して）を行う。	
会場	自主ゼミ探求型学習 ～環境・防災・地域の課題への取り組みを通じて～	社会環境学部 学部長 石田明生 教授 （発表者）石田学部長、喜久川教授
	自主的に設定した課題解決のためにみんなで考え、力を合わせて主体的経験を共有する仕組みを提供する。 主として1・2年生を対象に、自ら学びたい内容や探究・研究したいテーマを決め、設定した課題の解決に向けてメンバーどうして議論し、力を合わせて主体的に学習・研究に取り組む。教員はテーマの決定や学習の進め方について助言し、学生が主体的経験を共有し取り組みを進められるようサポートする。	
会場・ZOOM	D X時代における経営人材の育成推進 -産学連携と学生主体のピアサポート・コミュニティによる裾野拡大	経営学部 学部長 小豆川裕子 教授 （発表者）小豆川学部長、山下学科長
	現在民間企業・自治体双方でDX推進、AI、IoTの実装が加速化している。これらを背景に、文系学生にも「経営とIT」の関係を理解し、情報分野の知識とITスキルに習熟した人材が強く求められている。そこで産学連携と学生主体のピアサポート・コミュニティによるITパスポート試験合格者数の早期拡大とそのプロセスを通じて涵養する実業界で活躍できる人材育成を目的として実施する。	
ZOOM	保育者養成課程における実践力向上を目指した 教育支援体制の整備と補完 ーこども健康学科の教育的柱としての自然教育プロジェクトの提案ー	保育健康学科 学科長 高 向山 教授 （発表者）中村教授
	保育健康学科の新たな教育の特色として、自然教育を教育の柱とした豊かな人間性と保育実践力を備えた専門職の育成を目指すプロジェクト。このプロジェクトでは、1年生から4年間かけて全学共通科目や専門教育科目での学びを、都田の自然のなかで子どもたちや地域の方々との活動と連動させながら、各学年で段階的に人や自然を慈しみ守る心と保育実践力を高めていく教育を体系的に行う。	
ZOOM	ICTを活用した個別最適化教育による教育の質的向上を目指す事業	保健医療学部 学部長 矢澤 生 教授 （発表者）矢澤学部長、鹿田准教授
	個別最適化教育を導入し、保健医療学部における教育の質的向上を目指す事業の展開を目的とする。	
動画	デジタルクリエイティブオンライン講座推進事業	造形学部 学部長 土屋和男 教授 （発表者）洞口講師
	3DCG、映像、Webプログラムなどに代表される高度なデジタルクリエイティブ教育について、デジタルハリウッド株式会社によるオンライン講座「デジハリオンラインスクール」を造形学部の教育と連携して3年間開講する。事業終了時まで成果を検証し、十分に判断できる場合は正課での実現を検討する。受講生は年間で60時間から90時間の内容を自宅で視聴して制作を行い、同講座の講師からの添削や講評を受けるとともに、学部教員による技術習得度合いの確認を受ける。	
動画	看護学におけるICTを活用した主体的学修プログラムの構築	看護学科 白石 葉子 教授 （発表者）棟久准教授
	ICTを活用した看護技術を中心とした専門科目の学修方法を構築し、学生の学修成果の定着と、主体的な学修態度の修得を目的とする。課題解決のために主体的に行動できる看護人材の育成は現代の高度化・複雑化した保健・医療・福祉の状況においては必須である。また、看護対象者の複雑な心身および社会的状況を判断し看護を提供するためには、学びを積み重ね、応用力を持つことが重要である。看護技術教育を中心にiPadおよび電子テキストを導入し、学生がリフレクションから学び合い、電子テキストを用いたタイムリーで多様な知識の修得および自主学習の促進を目指す。	
動画	デジタルトランスフォーメーション（DX）による 個別教育の推進と学修成果の可視化実現	静岡理学療法学科 学科長 佐藤友紀 教授
	興味・関心を持たせる授業の展開に加え、個々の学生の状況に合わせた学修支援を開発し初年次教育を改革する。これらは本学科が課題及びその原因として挙げている「学業不振による退学」に対する取り組みとなる。DX導入とその活用は、「学びの質の向上」、「学修者本位の教育の実現」に資するための取り組みとなり、学修成果の可視化を実現する。	

## 6. アンケート結果

1) 事業成果報告会を聞いて、良い取り組みであると評価する事業を選択してください。  
(複数回答可)



2) 1) で選択した理由があればご記入ください。

- ・課題の設定が、具体的であり明確である。
- ・デジタルクリエイティブがとても魅力的に感じた。
- ・DXは実務で必須となってきているから。
- ・DXやICTを活用した学びの深化についての取り組み事例が参考になった。
- ・ICT活用にあたっては、授業の参加意欲、能力の実態を真摯にうけとめ、時代に合わせて、視聴に終わらせるのではなく、VRで学修成果の可視化の解剖学や看護の教え合い学習等、知識を知るだけでなく、どう他人に活かせるかを実証している。
- ・それぞれに学部の特色が表れていて、かつ、興味深い内容でもあった。
- ・学修成果を上げるための取り組みとして参考になる。
- ・特色的な教育推進が行われている

3) 今後本事業に期待することがあればご記入ください。

- ・せっかくの活動なので、学外にも発信したら良いと思う。
- ・開始した事業については、途中で中断することではなく、計画通りに実施していただきたい。
- ・みらい教育という視点で、「AIをどう活用するか」という取り組みが本学の学生層には必要かと思う。
- ・大学の学びの発展性や普及等に活躍されることを期待したい。
- ・学生の意見を反映させながら、より効果的な事業になると良い。
- ・最終年度になる学部・学科での成果と課題がどのようなものであったのかがわかれば今後の教育改善に役立つ。

4) その他

- ・他の学部・学科の授業の工夫がとても参考になった。
- ・学生がITパスポート等を進んで取得してほしい。
- ・発展に寄与できるように様々な取り組みを行いたい。
- ・学科会議のため報告会に参加できなかったが、他の報告も動画視聴等で参照できれば良い。
- ・大学での様々な試みとその成果を知ることができて、大変良い経験となった。高校生にも伝えたいと思う。